

産業に生かす科学

－ 出口を見据えた基礎研究の推進 －



巻頭言

八木 康史*

ISIR Pursues Target-Driven Basic Research Leading
to Real Innovation

Key Words : The Institute of Scientific and Industrial Research

第4期科学技術基本計画では、科学技術政策の役割を科学技術の一層の振興を図ることはもとより、人類社会が抱える様々な課題への対応を図るためのものとして、科学技術によるイノベーションの実現に向けた政策展開を目指していくと述べています。

産業科学研究所は、大阪を中心とする関西財界や有志の「産業に必要な自然科学の基礎と応用に関する研究機関を大阪に設置したい」という強い要望を背景に、昭和14年、現在の大阪大学の前身である大阪帝国大学に設立されました。現在、新たな産業創成の源泉となる基礎科学を極め、その成果に立脚して応用科学を展開することを目的に、材料、情報、生体の3領域とナノテクノロジー・ナノサイエンス分野の研究を推進する総合理工学型研究所へと発展しています。特に、ナノサイエンスでは、全国の国立大学に先駆けて産業科学ナノテクノロジーセンターを設立し、我が国におけるナノサイエンス研究の先導的役割を果たし続けています。また、北大電子研、東北大多元研、東工大資源研、阪大産研、九大先導研の5大学附置研究所による全国縦断型「物質・デバイス領域ネットワーク拠点」を形成し、その拠点本部として、我が国では前例のない新しい効率的な共同研究システムを構築しました。

これらの基礎科学に立脚した上で、平成24年度からは、改めて設立時の精神に立ち返り、「産業に

生かす科学－出口を見据えた基礎研究の推進－」を基本理念に、社会の要請を的確に把握し国民の期待に応える新しい科学の創出を目指すことを決意しました。成果の産業化促進剤として、インダストリーオンキャンパスを実現するインキュベーション棟を阪大初で完成させ、企業リサーチパークが稼働していますが、これらに加え、平成25年4月から世界最大のナノテク研究機関 imec のブランチが企業リサーチパークに入居し、阪大－imec－企業の国際的産学連携研究が今、まさに図られようとしています。これらの取り組みは、参画企業の実用化ニーズを国際的に結びつけ、産研の持つ材料、情報、生体、ナノテクノロジーのシーズポテンシャルから、特に環境・エネルギー・医療・安全安心分野の問題解決に向けた出口までを繋ぐ総合的研究開発の推進を可能にするプログラムといえます。

科学技術がより身近になる社会において、産研は歴史と伝統を背景に、新しい時代をリードすべく、今後も環境・エネルギー・医療・安全安心に関する課題を解決することを中心に、独自性の高い世界最先端の基盤科学技術創出の努力を続けて参りますので、皆様の温かいご支援とご協力・ご鞭撻を心よりお願いいたします。



* Yasushi YAGI

1959年9月生

大阪大学大学院基礎工学研究科制御工学
専攻修了(1985年)

現在、大阪大学 産業科学研究所 所長
教授 工学博士 視角情報処理

TEL : 06-6879-8508

FAX : 06-6877-4375

E-mail : yagi@am.sanken.osaka-u.ac.jp